

News letter



一般社団法人
日本精神保健看護学会
Japan Academy of Psychiatric and Mental Health Nursing

第92号 | 2022年
3月1日

(一社)日本精神保健看護学会事務局：〒100-0003 東京都千代田区一ツ橋 1-1-1 パレスサイドビル 9F
TEL:03-6267-4550 FAX:03-6267-4555 E-mail:maf-japmhn@mynavi.jp HP:http://www.japmhn.jp

一般財団法人 日本精神保健看護学会 第32回学術集会・総会のお知らせ

第32回学術集会会長 荻野 雅
(武蔵野大学)

下記の日程、テーマで学術集会を開催いたします。

会 期：現地開催 2022年6月4日(土)、5日(日)

WEB配信 6月4日(土)～6月30日(木)

会 場：武蔵野大学有明キャンパス(東京都江東区有明3-3-3) TOC有明(東京都江東区有明3-5-7)

テ マ：精神保健における精神看護の責務-ウィズコロナの中でのチャレンジ-

開催方法：ハイブリッド開催(現地開催及びオンラインライブによる配信)

(現時点での企画です。感染拡大状況によっては開催方法を変更する場合がございます)

会 長：荻野雅(武蔵野大学看護学部)

学術集会事務局：武蔵野大学看護学部(〒135-8181 東京都江東区有明三丁目3番3号)

E-mail: japmhn32@musashino-u.ac.jp

開催概要：

一昨年から新型コロナウイルス感染症のパンデミックを体験し、私たちの生活様式は一変しました。そして様々な精神保健上の問題も浮かび上がってきました。精神看護に携わる私たち看護専門職者は、人々の心の健康の保持増進、疾病予防についてどのようなチャレンジができるのか、本学術集会において、皆様と共に考えていきたいと思っております。

大会講演として、大阪大学の武用百子先生に「ウィズコロナの時代に求められる精神保健看護の専門性」と題してご講演をいただきます。教育講演では、目白大学の重村淳先生に「新型コロナパンデミックにおける精神保健」と題してご講演いただきます。それを受けて、実際に地域で人々の精神保健に携わっている方々に、実際の活動をお話ししていただくシンポジウムや、当事者の方々が望む精神保健とは何かについてのシンポジウムも企画しております。

日頃の研究成果を共有する、一般演題やワークショップの受付も開始しております。

事前登録の受け付けも開始しております。多くの皆様のご参加をお待ちしております。

事前登録、演題やワークショップの受付などについては、ホームページでご確認ください。

<https://japmhn32.com/>



研修会レポート

実践の質向上委員会 天野 敏江
(国際医療福祉大学)

2021年11月28日実践の質向上委員会では、コロナ禍で実習が十分に積めなかった新人看護師を対象としたオンライン研修会「精神科看護の基本の「き」のおさらい」を開催いたしました。精神科看護の倫理、コミュニケーションスキルの知識と技術を中心とした内容で、看護師と患者のロールプレイやグループディスカッションに時間をかけ、コミュニケーションスキルの習得と参加者同士の交流も目指しました。参加者は19名で、アンケート結果(14名回答)は、【研修内容のわかりやすさ】は「とてもわかりやすかった」12名、「わかりやすかった」2名、【研修内容は今後の臨床での実践に役立ちそうか】は「大いに役立ちそう」12名、「役立ちそう」2名でした。自由記載をいくつかご紹介させていただきます。

☆ コミュニケーションのスキルについて、グループワークで演習することによって自分なりの使い方を探すことができ、明日からの実践で早速活かしていきたいと考えました。この時期に、改めて基礎を振り返ることができて非常に貴重な学びになりました。

☆ 初めの5分間のグループワークではみんな手探りで十分に話し合うことができず対面でない難しさを感じた。具体例を挙げて講義をしてくださったので、自分がこれまでに体験したことを当てはめながら考えることができ、今後とても役立つ内容であった。自分が関わっている患者になりきってロールプレイをすることで、新しいコミュニケーションの方法に気づくことができたり、これまでの関わりの中で無意識に今回学んだコミュニケーション方法を使っていると気づいたり、患者さんにとって逆効果になる返し方をしていたりと多くのことを振り返る機会になった。

☆ 精神看護において、非言語的メッセージが果たす役割の大きさについて分かりました。言語的メッセージと非言語的メッセージを一致させる等、日頃のコミュニケーションに活かしていきたいです。また、ソクラテス式質問法を用い、患者さん主体の会話に広げていけるようにしていきたいと思いました。本日学んだことを、今後の患者さんとの関わりに取り入れていきたいです。

コロナ禍が長期に及び新人同士で集まる機会も減っているため、つながる場を作る役割としての研修会の可能性も感じられ、次年度も開催の意義があるのではと考えております。

(講師担当: 菊池 美智子・則包 和也・松田 優二・森内 加奈恵・天野 敏江)



Social Skills Training の日本語表現について（他団体からのお知らせ）

2020年8月31日 一般社団法人 SST 普及協会
(株)ここから 代表取締役 村本好孝

私ども SST 普及協会は、1995年2月の発足から Social Skills Training (SST) の普及と発展に尽力してまいりました。そのかいあって、SST は医療分野のみならず教育、司法・矯正、市民生活の領域へと広がり、また SST の内容もコミュニケーション・スキルの改善、対人関係の構築と改善、生活上の問題解決、疾患の自己管理などへと大きく広がってゆきました。現在では SST はかつての「入院生活技能訓練」という狭い領域に限られず、広い領域で多様な内容をもって取り組まれるようになっております。私どもの事業につきましてご理解とご協力を頂いておりますことに感謝申し上げます。今回は「社会生活技能訓練」の用語を見直し、「社会生活スキルトレーニング」と改訂しましたことのお知らせするためにこのような機会をいただきましたこと、加えて感謝申し上げます。

従来の和語である「技能訓練」には、支援者が SST に参加する当事者を訓練するという一方向的で支援者が一段高い立場から当事者を支援するという響きが感じられるとの意見があります。しかし、今、時代は支援者・当事者が共同創造 (co-production) により生活の質を上げる、社会参加を進める、生活上の問題を解決する、コミュニケーションの力を増すことを重視するように変化しています。こうした変化に沿う和語（用語）が SST を利用する人々に望まれていると考えます。

SST 普及協会は、当事者の主体的な学び、当事者のパーソナル・リカバリーが求められる時代の SST (Empowered SST (e-SST)) を発展させてゆきます。SST は「こうなりたい」「こういうことができるようになりたい」という当事者の希望から出発することを強調し、参加当事者の希望をもとに、当事者と治療者が共同で目標設定をして SST を実施するものと考えています。また、当事者の内発的動機づけ、SST セッションへの主体的参加や当事者が抱える問題への自己対処の意欲を尊重し課題遂行は治療者と当事者の共同を大切にしています。ほかにも、認知機能の改善や認知機能リハビリテーション (cognitive remediation) と結びつけること、SST を地域生活支援のコア技術として位置づけ、訪問サービスや家族心理教育・家族支援などと統合した SST として実践することです。e-SST は自ら学ぶことを基本にしており、また（送信）行動だけではなく、認知（受信と処理）についても介入の対象としますが、そうした特性から従来の SST の方がより適切なスキル練習ができる対象や状況が広がっていくものと考えています。

そのような支援者と当事者の共同創造あるいは当事者の主体的な学びを表現するのに相応しい用語（和語）として「社会生活スキルトレーニング」が適切であると考え、SST 普及協会が用いる用語と定めた次第です。

私どもの使用いたします SST の日本語表現（和語）を順次新しい和語に置き換えて使用してまいります。関係各位には、改訂理由をご理解いただき、SST の和語の改変にご協力を頂けますようお願いを申し上げます。

理事会報告

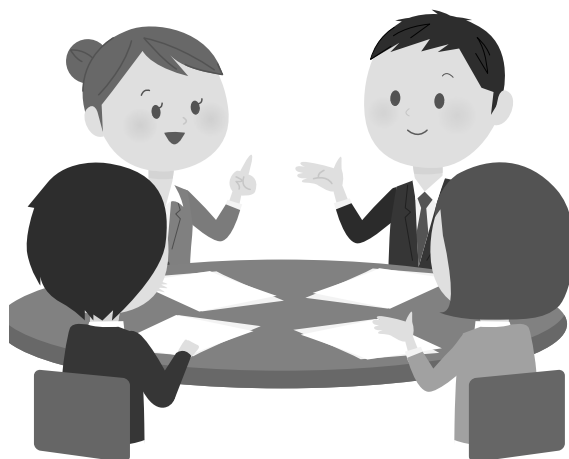
総務委員会 矢山 壮
(関西医科大学)

2021年10月2日、2022年1月8日に2021年度第4回、第5回の理事会を開催いたしました。

- 第32回学術集会の準備を進めています。すでに事前参加登録が始まっています。詳しくはホームページをご覧ください。
- 実践の質向上委員会では、今年度も日本認知療法・認知行動療法学会共催の研修会や中堅看護師の実践の質向上のための研修会を開催する準備を進めていることが報告されました。
- 教育の質向上委員会では、精神保健看護に特化した卒後教育の在り方を検討するために、精神科病床を有する施設の看護教育担当者を対象に、新人看護職員研修（中途採用看護職員研修を含む）に関する実態調査を行う計画で準備を進めていることが報告されました。

マイページのメールアドレス登録のお願い

本学会の活動、他学会・団体からの情報などを定期的に登録しているメールアドレスにメールを送信しています。もしメールが届いていないなどありましたら、学会ホームページ：<https://www.japmhn.jp/>のマイページにて会員情報の登録内容をご確認ください。



News letter

編集後記

昨年末はコロナ感染が少し落ち着き、久しぶりに実家に帰省された方も多いのではないのでしょうか？年明け以降、第6波の急速な感染拡大により、再び全国でコロナ対応に追われることとなりました。うつ病の回復過程のことを「三寒四温は春の便り」と例えることがありますが、この第6波の襲来も、春の訪れに向けての大事な一歩なのかもしれません。第32回学術集会は、皆様と一緒に知の花を咲かせることを期待しています。

(永江)

広報・情報委員会

寺岡征太郎（和洋女子大学）

神澤尚利（東京医科大学）

中戸川早苗（北里大学）

永江誠治（長崎大学）

瀧めぐみ（高知県立大学）

（お問い合わせ）メールアドレス：japmhn.pr@gmail.com



本会ホームページ



Twitter



Facebook